

# 爆心地・<sup>しま</sup>島病院（原爆被災説明板）

〔地図番号43〕

<b>建立年月日</b> 1933（昭和8）年8月31日（開院）	
<b>建立者</b>	<b>設計者</b>
<b>形状（当時の島病院）</b> 近代的なレンガ造2階建てで、玄関の両サイドの丸柱と円形窓が印象的な建物だった。	



## 説明板

「テニアン島から飛来した米軍機B-29「エノラ・ゲイ号」によって人類史上最初に投下された原子爆弾は、この上空約600メートルでさく裂しました。爆心直下となったこの一帯は約3,000度～4,000度の熱線と爆風や放射線を受け、ほとんどの人びとが瞬時にその生命を奪われました。時に1945（昭和20）年8月6日午前8時15分のことでした。」

## 特記事項

### 1 爆心地

当時：広島市細工町<sup>さいくまち</sup>29-2、島病院上空

現在：中区大手町一丁目5-24、島内科医院南側大手町第3駐車場上空、東経132度27分27秒、北緯34度23分29秒、高度約600m

### 2 原爆さく裂の瞬間

T字型の相生橋を投下目標にしたとされる原爆は、島病院の上空約600mで炸裂しました。さく裂後、中心温度がセ氏数百万の小型の太陽ともいえる火球が発生しました。1秒後には半径200mを超える大きさとなり、爆心地周辺の地表面の温度は3,000～4,000度にも達しました。爆心地から100m地点での爆風は秒速約280mでした。

（鉄の溶ける温度は約1,500度、太陽の表面温度は約6,000度）

### 3 爆心地の推定

熱線による影の方向を基礎データとし、その方向を地図上に落とし、交差する地点を爆心地としました。

### 4 島病院の被災状況

被爆当日、島病院の院長（島薫氏）は出張診療で不在だったため難を免れました。建物は瞬時に壊滅し、約80人と推定される患者・看護婦などの病院内にいた人は全員が亡くなり、姿は跡形もなかったといえます。